

梅雨前線が南九州に、「梅雨」入り。 例年は、沖縄から始まるのに、異常気象の予兆か？ … 恐ろしや。

区民農園 57 区の中央通路(作業路)の土を除けて、一段低くする。 作業姿勢が少々楽になる。 ドシャ降りが続くようであったなら、通路の両端に穴をあけて割り若竹を挿しこんで、排水を図ろう。 パパイアの根穴も当てになる。 根穴は排水管だ。 給水管だ。 これで、畑の水管理は、OK。 不耕起栽培の 2 年めである。

千川緑道で、草を刈りナスにマルチ

「緑肥」⇒ ケイ素・加里肥



ナス畝に刈草を敷く

ジャガイモ

去年のサトイモの後畝で、養分はやや多め。 盛んに成長している。 土寄せ。 イモから出た芽をそのままにしていたので、多繁茂中。 隣の畝に倒れかかるので、支柱を立てて防いでいる。 イモは、小粒に育ってしまうのか？。 だろうな！。(5/21) 專業農家の尾崎さんの芋畑を見て花芽をむしる。 カニペレットの顆粒を撒く。 追肥。 土寄せ。 元気すぎる様子にとまどう。 深溝の「土」で盛り上げる。 ジャガイモの畝幅が広がった。

「芽欠き」時に、腰痛。 一本仕立てにできなかった。 で…、収穫までの栽培時間を多めにします。 今の所、病気は出ていません…、のんびりやろう。

ナス …… 4月号をご覧ください

サトイモ

タケノコイモ

ジャガイモの繁茂で日当たりが悪くなった里芋。調子が出ない。 筍芋(京芋)石川早生の2種。 カキナの後畝。 カキナの茎を根元で切って根はそのまま残す。 不耕起栽培、不耕起栽培。 深溝の「土」を盛る。 中央通路の「土」を盛る。 広畝になってくる。 肥料、グリーンランド(醗酵豚糞・株式会社エンザ)、を大目に撒く=置く。 「糠」を撒く。 多肥である。

インゲン

サトイモ畝の縁にインゲンを植え、支柱を立てる。 去年のインゲンは、当たり。 採れて採れて、面白かった。 マメ科の作物は「土」を良くする・・・？で、色々と植えている。 レンゲ・サヤエンドウ・クロタラリア・大豆・・・など。 これらのマメ科の植物は、「緑肥」として使える。 残渣は貴重な肥料になる。 で、捨てる場所は全く無いのである。 短く切ってマルチ材に。 地表に置くだけ。 地中には入れない。 必要なら「糠」を振る。

インゲンは、8月に入ると茂るだけ。 そこで、片付ける。 モロッコインゲンは、煮物良し、炒めて良し。 とにかく美味しい。



中央の作業路

作業路 耕作区の中央に、用具・肥料袋・箆目のトレイ・鉢・・・を置く

ブロッコリー残滓、うろ抜いたニンジン、カキナの残滓、サヤエンドウ残滓、短めに切って作業路に放り込む。 有効な「菌」、「糠」、「ダルマ堆肥」も、混ぜる。 これまで、悪臭が出たことは無い。 それどころか、時には酒蔵の香りがすることもある。 酵母菌醗酵である。

醗酵鶏糞、醗酵油粕のような「腐敗臭」は全く出ない。 油粕の腐臭は、強烈である。 でも「菌」の力で、中央作業路からは悪臭は出ない。

「有効菌」とは、「麹菌」「納豆菌」「乳酸菌」「酵母菌」「バチルス菌」「放線菌」「放線菌」「光合成細菌」・・・など。 積み込んだ残滓の上に置く。 中央作業路には、肥料袋やトレイ、支柱などの資材も置く。

「放線菌」のエサは、カニ殻・エビ殻。 甲殻類の殻の散布は、無農薬栽培での病気対策の初手と言えましょう。 「糠」を撒く。 「カニ殻」を撒こう。

「竹チップ」「竹パウダー」「竹茎葉」・・・ 抗菌力がある。 竹に期待しましょう。 竹の有機物を探して、使っている。 竹を小型携帯カンナで削るも良からう。

畑の端に置いた水槽 ⇒ 大き目のコンテナ鉢

コンテナの中にも小さなコンテナをいれて、その中にクワイ・姫蓮根・芹・クレソン・稲……。水中には、マツバモ(藻)なども。メダカ・タニシ・オタマジャクシも居る。アオコ・アオミドロ・浮草などが発生する。コンテナ水槽は、昆虫や小鳥たちの水飲み場でもある。5月31日、メダカの産卵行動が？。

アオミドロが繁殖しすぎるとメダカはとじ込められて、死んでしまうヨ。髪の毛のように絡んだミドロを畝間に絡めて捨てる。これも「緑肥」だ。

皆んな来い。在って良い。居て良い。蜂、蝶、蛾、…皆々、おいでなさい。

このところ、蜂が飛んでこない。トンボもハナアブもハエも飛んでこない。いない。畑で聞いた朝の虫たちの羽音が全く失われてしまったヨ。

千川上水浴いの植え込みの手入れが良すぎる。アオダイショウも今年(2025年)居なくなった。以前見かけたアオガエルも居なくなっている。60年以上も前？、否、70年以上も前か……。

キュウリ トマト ナス ピーマン…夏の3大果菜ら

キュウリ

作業路の北側の畝にキュウリを6種類。各、1本ずつ。5節までの脇芽を外す。1.5mぐらいの所で頂芽を取る。脇芽から伸びた蔓には、雌花が沢山つく。脇芽、不要な雄花を欠き取る。5月28日、初収穫。一本。

「千川緑道」で採取した茅で「緑肥マルチ」。その上にラワンの腐れ板を置く。幅広の板は、踏み圧の害を防ぐ。仮通路でもある。

昔、子供たちが畑に入り駆け回ると耕作者に叱られた。耕うん機などない時代である。ウリ科の植物は、踏み圧に弱い。根が切れるのである。

刈草マルチの上に追肥肥料をただ置けば良い。載せればよい。クオク・ラククなのだ。有機物は、畝の中に入れない。刈草マルチの上に置くだけで良い。

蔓が暴れ出したり衰えてきたら、整理して、苗を捕植。種子を蒔く。

カメムシ、ウリハムシの襲撃にあう。手で捕殺。

トマト

乾き気味の畝で良い。アンデスの高地……。海岸際から高地まで、栽培種を含めると物凄い種類があるようだ。日本でも近くの草原(くさはら)を探すと、あります。アンデスには凄い数のトマトの仲間がいる。

アンデス大山脈、火山性の母岩、一帯は、「酸性土」である。現地では支柱栽培ではないようだ。地表を這い回る。暖傾斜地を這い登る。脇芽が勝手にでる。伸びる。根が出る。粗放栽培であると聞く。養分を施すとドンドン繁殖、実を付けると言う。

太平洋から立ち上る水蒸気。茎や葉の「毛」で水分を受け取る。地中は、乾燥気味。是非とも現地を見てみたいものだ。

わが国では多くの病気に犯される。中々機嫌の悪い作物だ。モザイク病、フザリウム、ペシウム…などにやられる。アブラムシに襲われる。

ピーマン

トウガラシ、ピーマン、パプリカ 多肥の畝にする。支柱でささえ、しっかり育てる。3本仕立て。固定する。垂れ下がった不用の枝は早めに引き取る。「元肥」「追肥」が肝心。干し草、刈草でマルチ。「糠」の追肥。半周ずつ交互に2週おきに施す。マルチの上に置く。根周りは、開けて置き清潔に。醗酵油粕の「マルタ玉肥」を使っている(生活クラブ生協販売)。とても使い易い肥料である。一霜振るまで成り続ける。トマト、ピーマン、パプリカからは、「旨味」が染み出る。激辛トウガラシの「辛味」も旨い。

オクラ ⇒ ダビデの星

長めの莢のオクラ、紫色(アントシアン)のオクラなど色々ありますが、ダビデの星は莢が大きくて軟らかくて美味しい。去年、隣の畑のWさんが作られていた。余りにも美味しそうなので一つ戴いた。その場で食べましたヨ。一つだけ。

「これは、旨い！」絶品もの。その味が忘れられず、通販(花俱樂部)で注文。5月25日早朝、苗が届く。同日10時菜園に植える。楽しみが増える。

糠漬け、揚げ物、煮物、サラダ、そのまま一塩振って、味噌……。思っただけで、よだれが…ネ。いやしいのですヨ。よだれが湧き出るのだ。

ダビデは、成育が見事で、2m近くに良く育つ。不耕起有機栽培をしていますと、何時でも植え付けOKですから安心安心。後は、水やり。多肥好き。

カメムシ ニジュウヤボシテントウ アリマキ=アブラムシ タンジイマジイ

このところ見かけるようになってきた虫たち。耕区の隅にタンジイマジイ(虫除けハーブ)を植えていますので、刈り取って細かく切って散布。「虫」たちが居なくなる、来なくなる。モンシロチョウもアゲハチョウも来なくなる。ヨトウムシも見かけなくなる。有効！。タンジイマジイはキク科。除虫菊の仲間。ともかく「有効！」。で、殺虫剤は要らない。ガマのオタマジャクシが遊泳中、ヨトウムシ退治は、ガマガエルに任せよう。

フルーツ

桑の実が熟しました。ビルベリイ。「生」でいただくと、薄ら甘くそれ程美味しくないのに砂糖を入れてそのまま煮ます。と…、とても美味しいジャムができます。香も良い。薄めましてジュースとしていただくとおいしい。

グミ 昨年植木屋さんに頼んで手入れしたら、ビックルグミも切られてしまい、3年待ちです。僅かに、渋みがある実。

ジャボチカバ ミラクルフルーツ

熱帯小果樹で4回目の花が咲いています。ネズミが大暴れ。ジャボチカバの甘い実はネズ公が快食。残念無念。このところ(3年)は、ネズミの勝。ミラクルは、「酢味」が、甘未に感じる麻酔作用のある実をつける。ひと頃、新宿「高野」のフルーツパフェでいただけましたが、今はメニューから、はずされているようだ。ゴリラが醗酵した食べ物。酢味が強いのでミラクル食べて、いるとか…、ゴリラの話は、ホントかねー？…。では、次号で… T、